

>> School Data

普通科・総合学科・森林科学科・食品流通科／1948年創立
生徒数／810人(男子385人・女子425人)
進路状況(2008年度実績)／大学 52.9%・短大 6.6%・
専門学校 25.0%・就職 13.2%・その他 2.2%
岐阜県郡上市八幡町小野970-1
TEL 0575-65-3178
URL http://www.gujo-h.ed.jp/

「不安」と対峙する親子をどう支援するか

学校から保護者への働きかけ

調査報告で浮かび上がってきた高校生・保護者の意識の変容をすでに肌で感じている先生方も多いだろう。この時代の保護者に対して、様々な働きかけをしている2校の事例を紹介する。

case 1

岐阜・県立郡上高校

親子コミュニケーションの問題に悩む保護者向け 高大連携教育セミナーを開催

普通科、総合学科、森林科学科、食品流通科の4つの学科を設置する郡上高校。卒業生の半数以上が大
学に進学するが、生徒の学力幅や進路は多彩だ。

「地域コミュニティの中で生徒が育っており、学校とPTAの結びつきも強い」というのは、進路指導部長の水谷勝也先生。例えば年に1回開かれるPTA支部集会では、各地域のPTA支部に学校側が出向いて説明会を行う。来校してもらうより参加率が高くなり、保護者も打ち解けて要望や質問などの発言がしやすくなるからだ。進路についての話を聞きたいという要望があれば、進路の担当者が向いて分科会を開催するなど臨機応変に対応している。

こうした、学校と保護者の良好な関係のなかから実現したのが「PTA教育セミナー」。水谷先生が保護者向けに企画し、PTAの協力のもと実現した。

ワークシートも取り入れながら 心理学から親子関係にアプローチ

「三者面談などで『進路のことなど家庭でよく相談してください』といっていました。けれども中には『どういつふうに子どもと話せばいいんでしょう』とおっしゃる保護者もいて、それにうまくアドバイスすることができなかったのです」と水谷先生。また「昨年の『キ

図1 第2回セミナーのテーマと内容

**親が迷うとき、子どもが迷うとき
～心が通うメッセージ～**

1日目／親が迷うとき、子どもはどうなるのか
“迷い”のメカニズムの理解
ワーク等を通して、マイナス評価をポジティブな言葉に置き換えてみることで、相手をプラス評価することの大切さを知る。

2日目／子どもの“迷い”の受け止め方
“最後はやはり親の出番?”
心理分析ワークやグループディスカッションを通して、親と子どものタイプの違いを知り、子どもとの関わり合い方を学ぶ。

3日目／中高生の我が子に効く親のメッセージ
“交流の場”から秘訣を!
グループで話し合い共感し合う。また、子どもの立場を演じて子どもの気持ちを知ったり、言葉だけではないコミュニケーションの方法を学ぶ。

ヤリアガイダンス』No.20で「高校生と保護者の進路に関する意識調査」特集を読み、全国データと自校の実態の違いはあったものの、保護者と生徒の間の問題に改めて気づかされたという。
そんな課題意識を、以前から交流のあった東海学院大学の職員に話したところ、高大連携の一環として

